

人里はなれた森や野原で、君たちはキャンプする。4泊までくらいのキャンプなら多少の不便は我慢して過ごすこともできる。だけでもっと長めのキャンプなら、その地の不便なところはスカウト技能で便利にしてやって、快適なキャンプ生活をおくろう。川を越える橋が遠ければ自分たちの橋をかけることだってできる。それがパイオニアリングの技能だ。

たとえば小さな湖や広い川をはさんだ対岸で、あるいはものすごく広い草原の両端にわかれて、他の班との班がそれぞれの班キャンプを張る。お互い森を背にしていたり、間に小さな丘があったりして、手旗通信もやりづらい。そんなとき、スカウトハンドブックで見た三脚信号塔ができればいい。

この三脚信号塔は、一見大がかりでタイヘンそうだけど、サイズの割に資材はシンプルな構成で、合理的にできている。そしてこの大きな塔を組み上げて立ち上げるとき、そのダイナミックな塔を自分たちで作上げたことに、大いに感激できるものだ。さあ、この夏、パイオニアリングに挑戦してみよう！

■用意するもの

主なものは5種類の長さの丸太、各3本。イラストのようなバランスになる長さを表に示したが、必ずしもこの長さでなくてもいい。踏場の床や梯子は竹でも軽くていい。

丸太・竹等			
下脚	5m	3本	図A
上脚	4.3m	3本	図B
下横	3.5m	3本	図A
上横(手摺)	3.0m	3本	図B
梯子	0.8m	15本	図C
踏場枠	2.7m	3本	図D
踏場床	2.5m~0.6mまで 段階的に12本ほど		
作業用枕	1.7m、1.6m	各1本	
ロープ、荒縄等			
結着用	3m	40本ほど	
梯子・引き用	15m	5本	
三角中心確認用	5m	6本	

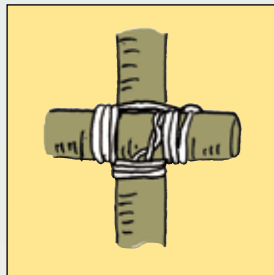


ダイナミックに盛り上がれ!

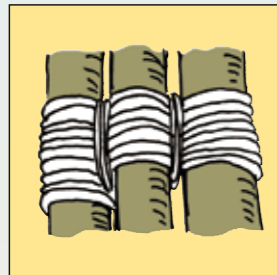
PIONEERING

パイオニアリングの楽しみ

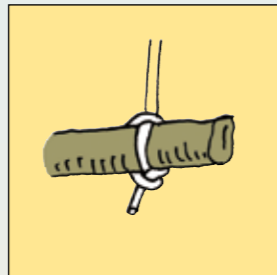
■主にこんな結びを使う



角しばり
ほとんどの部分は角しばりで固定できる。交差角が浅いところはすじかいしばりもいい。どの結びが適しているか、班で話し合い、隊長に相談してみよう。



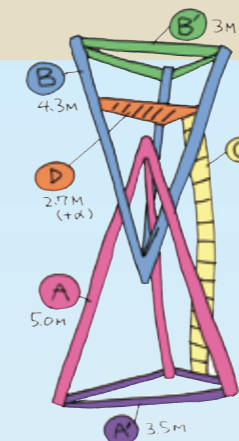
8の字しばり
3脚を作るときに使う。脚を開くときのゆとりをとっておかないとロープが切れてしまうが、ゆとりを持ちすぎるとしっかり固定できない。丸太の間にベグを挟むなどしてゆとりを持たせ、結び自体はしっかりと固めるのがコツだ。



てこ結び
なわ梯子に役立つ結びだが、注意しなければならないのは結びの上下。片側は重みをしっかり受け止めてくれるが、反対側から重みをかけるとゆるんでしまう。



これらの結びはいずれも『スカウトハンドブック』に詳しい手順が出ているのでよく練習しておこう。これらがしっかりできればパイオニアリングは必ず成功するだろう。



■材の配置

左ページの表に示した材はこのように組み立てることになる。以下の手順の図も材の色分けを同じにしてあるので、どの部分を作業しているかわかるだろう。

1 ブロック別の下組み立て

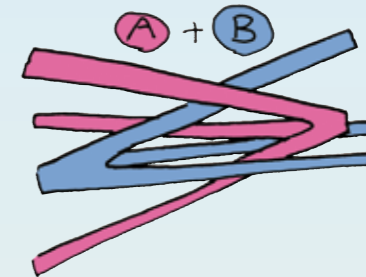
下脚の3脚(A)と、上脚の3脚(B)はそれぞれ端から50cmほどのところではしり合わせる。下脚3脚を固定する横棒(A')と、上脚3脚を固定する横棒(手摺:B')は、それぞれ正三角形になるように。やはり端から50cmくらいのところを結ぶ。梯子(C)と踏場(D)もこの時点で組み立てておこう。



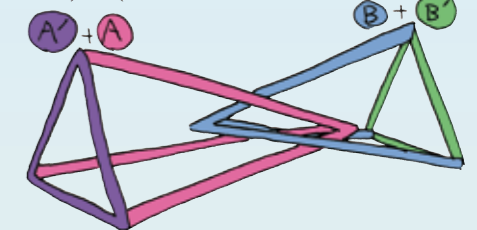
2 ラフに組み立てる

A+B

上と下の3脚を開きながら組み合わせる。互いの脚と脚の間にそれぞれ相手の脚が1本ずつ入るように注意。



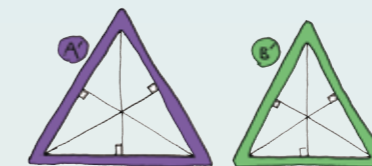
A'+A, B+B'



それぞれの3脚を横棒の3角形と結着。からみあった2つの3角すいにする。このとき、A' B'の横棒の3角形の内側にAとBの脚を固定するようにする。また、とくにAの方は脚の先が横棒から50cmほど飛び出すようにしておく(地面に埋め込ませるゆとり)。

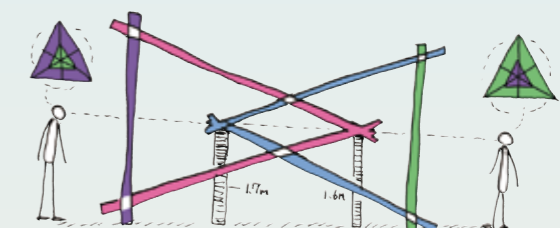
3 結合

センターを見る



A' B'の各横棒の3角形にそれぞれ3つの角から向かい合った横棒に垂直になるようにロープを張る。3本のロープが交わったところが各3角形の中心。

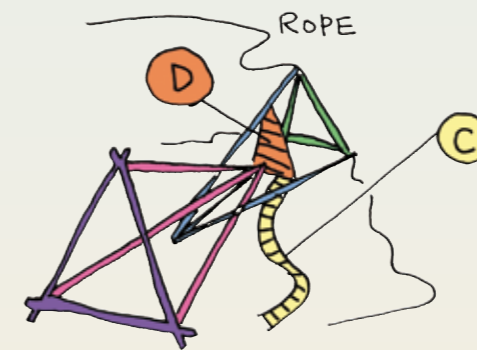
センターを一本に通し、ABを結着



ABの各3脚の頂点を、作業用の枕木に乗せるなどして、A'のセンターからBの頂点、Aの頂点、B'のセンターがきれいに1本の線になるよう整えながら、AとBの脚の交点を結着する。その後、ABの各頂点から互いの3本の脚へ、垂直になるようにロープを張る。これらのロープの張りを調節しながら、センターの1本線を保つようにする。

4 梯子と踏場をとりつける

しっかりセンターが通ったら、梯子と踏場と引き起し用のロープをとりつける。立ち上げてから梯子をつけようと思うと大仕事になるので注意。



5 立ち上げる

あとは力を合わせて引っ張り起こすだけだ。イラストでは人数を省いてあるが、そこにいる全員で力を合わせて、この最大のお楽しみをわかちあおう。

